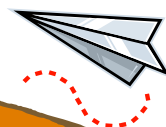




Vol. 6
ふしぎの本



紙ひこうき

児童書リスト



一宮市立子ども文化広場図書館

～ 子ども読書のまち いちのみや ～

2016年4月

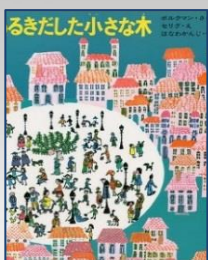
【初級】おはなしを読みはじめたみなさんへ



ふしぎなやまびこしゃんかん

中島和子／作 秋里信子／絵
金の星社

町はずれにあるやまびこしゃんかんは、なくなったおばあさんとの
おもいでが、たくさんつまっています。ちかごろは、おきやくさまがめったに
こなくなり、おじいさんはげんきがありません。そこで、ゆいはポスターを
かきました。するとあらわれたのは、ふしぎなおきやくさまでした。



あるきだした小さな木

ボルクマン／さく セリグ／え はなわかんじ／やく
偕成社

パパとママの木のそばで、ちびっこの木はとってもしあわせ、もりの
どうぶつたちともとてもなかよしです。ある日、みちにまよった男の子を
みて、いっしょにくらしたいと思いました。にんげんのせかいを知りたいと、
ちびっこの木は、たびにでるのです。



ふしぎなかぎばあさん

手島悠介／作 岡本颯子／絵
岩崎書店

広一は、だんちにすむ小学三年生。ある日、算数のテストが35点で
大ショック、おまけにいえにかえりつくと、げんかんのかがきがありません。
かぎをさがしているうちに、ゆきまでふってきました。そんなとき、くろい
オーバーをきたみたことのないおばあさんがあらわれて、いえのかぎを
あけてくれると言うのですが・・・。



ぺちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン／文 トミー・ウングラー／絵 さくまゆみこ／訳
あすなろ書房

ねているあいだに、大きな板がたおれてきて、ぺちゃんこになってし
まったスタンレー。はじめはおどろいて、こまっていたけれど、ふうとう
の中に入れば、手紙のようにはこんでもらえるし、長い糸をつけたら、
たこのようにとぶこともできちゃった。でもぺちゃんこのままでいいの
かな？

【中級】少し長いおはなしにチャレンジしたいみなさんへ



わすれものの森

岡田淳 + 浦川良治／作
BL出版

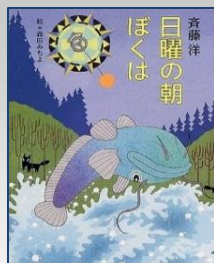
あすは、音楽会というのに、ツトムは大切なたて笛をなくしてしまいました。笛をさがしにだれもいない学校へ行くと、わすれものを集めるのが仕事だという、あやしげな二人の男にであいました。男たちにつれられて行ったわすれものの森で、ツトムはきみょうな歌声を耳にするのでした。



テレビのむこうの謎の国

エミリー・ロッド／著 さくまゆみこ／訳 杉田比呂美／絵
あすなろ書房

パトリックがゲームをしていると、パソコンの画面に「当選おめでとう、パトリック！当テレビの『さがし物チャンピオン』にどうぞご出演ください」というメッセージがあらわれた。約束どおり土曜10時、いつもは放送されてないテレビの8チャンネルから聞こえてきたのは、「それじゃ、こちらへ！」という司会者の声だった。



日曜の朝ぼくは

斉藤洋／作 森田みちよ／絵
理論社

四十年前の日曜の朝、少年の私は、いつもとちがうバスに乗った。それは<友だち>のために。私は、久世山の山頂までのあいだ、ロープのないロープウェイに乗ったり、川でおぼれているナマズと話をしたり、ふしぎな体験をした。これは、私だけが知っている、少年のころの記憶の物語。



さかさ町

F. エマーソン・アンドリュース／作 ルイス・スロボドキン／絵 小宮由／訳
岩波書店

リッキーとアンは、汽車にのって、おじいちゃんの家へむかうとちゅう、事故のため知らない町に泊まることになりました。そこは、なんでもさかさの<さかさ町>。子どもがはたらいて、おとしよりはあそんでいた、お店では、ほしい物がもらえて、おまけに代金までくれるという、とてもへんてこな町でした。

【上級】深く考えて読んでみたいみなさんへ



緑の精にまた会う日

リンダ・ニューベリー／作 野の水生／訳 平澤朋子／絵
徳間書店

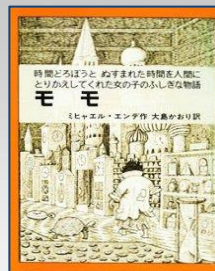
ロンドンに住むルーシーは、田舎のおじいちゃんの所へ行くのが 楽しみでした。おじいちゃんは、畑や草花の世話をする時ロブの話をしてくれます。ロブは、こっそり畑を手伝ってくれて、見える人にだけ 見えるのです。ところがおじいちゃんが亡くなり、家が売りに出されてしまいました。ロブはどこへ行ってしまうのでしょうか？



ハンカチの上の花畑

安房直子／作 岩淵慶造／絵
あかね書房

「あのう、郵便です。」これが不思議なつぼを預かることになった 郵便屋の良夫さんと、きく屋酒店のおばあさんとの出会いでした。不思議なつぼというのは、「出ておいで 出ておいで 菊酒つくりの小人さん」と歌うと、つぼの中から小人の家族が出てきて、とても おいしい菊酒をつくってくれるものでした。



モモ

ミヒヤエル・エンデ／作 大島かおり／訳
岩波書店

都会のはずれにある円形劇場の廃墟に住みついた少女モモは、みかけはちょっと不思議な子。だけどだまって話を聞いただけで、相手の悩みを解消したり、勇気や希望をもたらす力がありました。いつのまにか、モモのまわりの平和な暮らしが、時間貯蓄銀行の灰色の男たちによって、変えられていってしまうのです。

「紙ひこうき」を手にとってくださった方へ

みなさんは、本を読んでいるとき、お話の中に書いてあることを空想しながら楽しんでいることでしょうか。見たことも聞いたこともない人や物が登場したり、現実にはありえないようなストーリーだったりする、「ふしぎ」なお話は、私たちの想像する気持ちをかきたててくれるのではないのでしょうか？

今回は、そんな「ふしぎ」な物語を集めてみました。

